

いこいの村 平方米β子

題字 梅の木寮

2015年(平成27年)3月20日発行

第394号

発行責任者 いこいの村聴覚言語障害センター

所長 柴田 浩志

編集 いこいの村編集委員会

〒629-1242

綾部市十倉名畑町久瀬谷2番地

TEL (0773) 46-0101

FAX (0773) 46-0610

<http://www.kyoto-chogen.or.jp/ikoi>

綾東幼稚園との交流。
元気をありがとう!



「鬼は外…福は内…
パラッパラッパラッ豆の
音、鬼はさっさと逃げていく。」



共につどい
楽しんで

～綾部東部デイサービスセンター～



クリスマスケーキ作り。
手作りケーキの前でニコリ…



晴天に恵まれた一日でした。
みんなで「ハイチーズ!」

綾部東部デイサービスセンターでは、日々、多くの方々にご利用いただき、お喜びいただいています。とりわけ後半期には、節目ことに楽しい行事が目白押しです。

「秋の遠足」に始まり、「秋の大運動会」で体を動かし、「綾東幼稚園との世代を超えた交流」では子どもたちに元気をもらい、「クリスマスケーキ作り」では自分特製のケーキに舌鼓をうちました。年が明けてからは「初詣」や「新年会」とつづき、「節分会」ではリアルな鬼と福娘に戸惑いつつ、3月には「ケーキバイキング」でお楽しみいただきました。

「いこいの村のデイサービスに来ておかげで色んな経験ができて最高やわ」

さあ、来年度も、共に楽しみたいだきましよう。

(綾部東部デイサービス

センター 勝山貴至)

「またいこがー!」と思える

梅の木寮短期入所に

梅の木寮の短期入所

現在、梅の木寮には87人の方に長期入所、14人の方に短期入所(シヨートステイ)を利用していただいています。

短期入所を利用している方、綾部市外や京都市内に。また、健聴の方は、綾部市街地や、東部地域に住んでおられます。毎日、梅の木寮からお家へお迎えする方、何泊かされる方など利用日数は様々です。



長期入所と短期入所の違い

長期入所の方は、長期的に施設を生活の場として利用され、出来るだけ家庭に近い生活と充実した暮らし作りを目指して、希望に添った取り組みや、外出などを一緒に考え行っています。

短期入所の方は、在宅で主に生活されている方が、介護されているご家族の都合や、施設での生活を体験するなど、短期間施設で過ごすことです。

利用する日数分の荷物をカバンに詰めて、泊まりに来ていただきます。現在は長期入所の方、短期入所の方が同じ棟で暮らしていただいています。

「私はずっとここに居るんや」

「〇〇さんかーこんなとこで出会うとは思わなかった」

「ひさしぶりやなー一緒に話さかー」

短期入所の方が来られると、このような会話がよく飛び交います。

初めて利用される方は緊張がほぐれ「知っとる人がおつてよかった」と笑顔が見られます。

一緒に取り組みをしたり、

同窓会のような盛り上がりの反面で、認知症の方の中には、「なんでここに来たんやろ」と、不安で落ち着けない方もあります。「家に帰ります」とカバンを持って玄関に向かわれたり…。そんな時、

「今日、車で一緒にここへ来たんやで、泊めてもらおうな」利用者同士の声掛けに職員は助けられることもあります。



退所の日には「あんだはい

つまで、ここにおるんや?」

「私は今日帰ります」

「またここで会いましょうね」

利用回数を重ねるうちに、馴染みの関係が出来ていきます。



空の家のリビングにて

けれども、長期入所の認知症の方は、そんな会話や、短期入所者が退所される時間になるとそわそわされ、「私も帰るん?」「ずーっとここにおるんか?」と、毎日混乱のもとになっていました。

短期入所専門棟に

現在のユニット「空の家」(14床)を短期入所専門棟に変更する予定です。そこは、利用者皆さんが短期入所者で

す。

平屋建てで回廊型になっているため、散歩するには十分適したところです。中庭があり、野菜、花づくりなど楽しめます。自宅でされている仕事や、趣味が生かせる空間になればと思います。



空の家中庭の様子

長期入所と、短期入所のそれぞれの特性に合ったケアの視点を持ち、「より充実したユニットケア」を、個々の状況をきめ細やかに把握し、「安心して過ごしていただけるような居場所」を目指していきます。

(いいいの村・梅の木寮

渡邊美幸)

介護の窓

認知症とは?



何らかの病気によって脳の神経細胞が壊れるために起こる症状や状態を言います。

人は歳をとると誰しも徐々に記憶力が落ち「もの忘れ」が出てきます。単なる「もの忘れ」と認知症による「もの忘れ」は異なります。

例えば、単なる「もの忘れ」では、食事内容を忘れ、思い出せないことがあります。しかし認知症による「もの忘れ」は食事をしたことをすっかり忘れてしまい、思い出すことが非常に困難になります。

認知症の症状

認知症には色々な種類があり、初期症状も様々です。

- ・同じことを何度も言ったり聞いたりする。
- ・怒りっぽくなったり、ぼんやりしたり、以前と性格が変わったり、極端になる。

・判断力や記憶力が低下し、これまでできたことがうまく出来なくなる。

これらの症状の出始めには、本人も家族も、変化に戸惑い、不安になる方が多くいます。認知症について受け止められず、本人の言動に対して周りの人が否定し、とがめることで、ますます生活が混乱することが多くあります。

とくらの家での工夫

とくらの家では、9名の認知症の方が一緒に生活しておられます。ある日の午後、昼ご飯を食べてしばらくしてから、入居者のAさんが「ご飯食べてへんのやけど」と言っていました。

職員「そうですか。それはお腹すきましたね。何か食べますか?」

Aさん「そんなにはお腹すいてへんけど…」

職員「そうですか。もう少しでおよつの時間なので待ってくださいますか」

Aさん「ほな、そうするわ」

職員は「さっき食べたでしょ!」と否定せず、まずはご本人の気持ちを聞くようにしています。「ご飯を食べたことを思い出せなくても、「煮物を食べて美味しいと喜んでおられましたよ」沢山洗い物を手伝って下さって助かりました」など、その時の様子をお話しし、不安な気持ちを少しでも取り除けるよう声掛けをします。



認知症になってもできることが沢山あります。できないことを手助けし、その人らしく生活できることが、気持ちの安定につながります。私たちは、認知症の方、そのご家族の不安も軽減できるように地域の施設でありたいと思っています。

(いこいの村・とくらの家)

大槻彩美

多くの方に支えられ3周年



いこいの村
聴覚言語障害センター
所長 柴田 浩志

石釜パンの製造販売で知られる「いこいの村」からの里にお住いの尾笹秀夫さんにパン作りの指導をいただくなど、地域の皆様には驚くべき施設の整備に大変お世話になりました。開所後は、綾部会との連携、京都生協キッズクラブの体験利用、民生児童委員の見学体験など、綾部市内はもとより、京都府内の皆様にも広くご利用いただくようになりました。先日、福知山市で聴覚障害者福祉について講演する機会があり、参加者された方から「いこいの村のパンをいつも食べてますよ」とお声をかけていただきました。

開所に当たっては、武吉町にお住いの尾笹秀夫さんにパン作りの指導をいただくなど、地域の皆様には驚くべき施設の整備に大変お世話になりました。開所後は、綾部会との連携、京都生協キッズクラブの体験利用、民生児童委員の見学体験など、綾部市内はもとより、京都府内の皆様にも広くご利用いただくようになりました。先日、福知山市で聴覚障害者福祉について講演する機会があり、参加者された方から「いこいの村のパンをいつも食べてますよ」とお声をかけていただきました。

無農薬バラの栽培に挑戦

たからの里が、旧だから保育園を改修して活用していることから、園庭に立派な屋内プールがあります。今春から栗の木養農業班の仲間が、屋内プールを改修した温室ハウスで、無農薬バラの栽培に挑戦します。このバラ栽培を指導いただくのは、京都市でバラ園を経営されている、奥田容彦さんです。奥田さんは、綾部市にある京都府農業大学を卒業された後、アメリカで1年間バラについて学ばれ、現在フラワーデザイナーとしても活躍されています。仲間が栽培したバラを、バラシヤム、バラティール、バラ香水等の商品として販売することを目指します。

みんなの手話

《バラ》



つまんだ右手指先を上に向けて左の口端につけて開きながら左に回す

